

熊本高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	公共
科目基礎情報						
科目番号		0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科		人間情報システム工学科		対象学年	1	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教材		東京書籍『公共』 間宮陽介 大沢彩 他				
担当教員		永野 拓也				
到達目標						
評価項目1 民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。						
評価項目2 資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。						
評価項目3 統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。						
評価項目4 財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学について基礎を理解し、説明のための必要な語句として正しいものを判別でき、文章として説明できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。		民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学の基礎的語句の半数強を判別でき、文章による説明ができる。		民主主義の政治体制とその諸原則、日本国憲法の原理と基本的人権の尊重といった政治学の基礎的語句の半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。
評価項目2		資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。		資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学の基礎的語句の半数強を判別でき、文章による説明ができる。		資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学の基礎的語句の半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。
評価項目3		統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史にかんする基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。		統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史にかんする基礎的語句の半数強を判別でき、文章による説明ができる。		統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史にかんする基礎的語句半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。
評価項目4		財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。		財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学の基礎的語句を概ね判別でき、文章による説明や、それをを用いた論述ができる。		財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学の基礎的語句の半数弱を判別できるとしても、文章による説明は困難である。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		政治分野・経済分野それぞれの基礎的な内容を解説する。とりわけ、民主主義、憲法、統治機構、国際政治（以上政治分野）、資本主義経済、貨幣・金融、財政、国際経済（以上経済分野）を教科書にそって解説し、適宜論述課題を与え、小論文・作文を作成させる。				
授業の進め方・方法		教科書に従い講義を中心に進める。新聞を中心とした主に印刷された報道・情報を収集し、教科書にない時事的な内容も織り交ぜて興味・関心を引くようにする。今日の日本の政治と経済についての基礎的な知識を獲得すると共に、有権者となったとき、積極的に選挙に参加する公民としての意欲を育てたい。また論述課題を通して、与えられたテーマについて、偏見なく他人に伝わるように論じられる論述力を養いたい。				
注意点		2単位科目 60時間。 2年以降の社会系科目の基礎となる。関連科目は世界史、倫理、日本史、4年の選択社会科科目。 授業項目1～9から出題する定期筆記試験（80％）と論述課題（20％）で総合評価し、60％以上の得点で合格とする。未提出の論述課題は0点とする。 プリントなどの配布物はきちんととっておくこと。居眠り、私語厳禁。教科書を何度も読みこむこと。そして大事なところにアンダーラインを引く。次に授業の板書事項や説明事項をよくメモして、自分なりのノートを作成して欲しい。また授業の際は時々、意見を問うので自分の考えを述べる習慣をつけてほしい。試験の前は教科書とノートを良く見返し、復習すること。寮生はテレビを見る機会は少ないが、新聞やラジオによるニュースにはふれることができる。できるだけニュースを見る・聞く・読むそして考えるクセをつけてほしい。				
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		政治・経済とは何かについて理解し説明できる	
		2週	民主主義と基本的人権		民主政治の基本原理や諸原則について説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。	
		3週	民主政治の諸原則		同上	
		4週	主要国の政治制度		同上	
		5週	憲法の原理と政治機構		同上	
		6週	基本的人権の尊重		同上	
		7週	日本国憲法		同上	
		8週	小論文・作文			
	2ndQ	9週	中間試験			
		10週	試験答案返却と試験解説			

後期		11週	資本主義の発展と経済学	資本主義の仕組みや市場経済、国民所得や貨幣・金融にかんする経済学について基礎を理解し、説明説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。
		12週	市場と経済	同上
		13週	国民所得と経済成長	同上
		14週	貨幣と金融	同上
		15週	定期試験	
		16週	試験答案返却と試験解説	
	3rdQ	1週	国会と内閣	統治機構の仕組みや国際社会、そして近過去の政治の歴史について説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。
		2週	裁判所と地方自治	同上
		3週	民主政治の諸問題	同上
		4週	国際社会と国際連盟	同上
		5週	国際連合と国連による平和維持活動	同上
		6週	冷戦の展開とその終焉	同上
		7週	国際平和と日本の役割	同上
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験答案返却と試験解説	
		10週	財政	財政や経済史、貿易や国際経済体制といった経済学について基礎を説明するための必要な語句として正しいものを理解し、説明できる。
		11週	日本経済史、産業構造の変化	同上
		12週	貿易、国際収支、外国為替	同上
		13週	IMF体制、地域統合経済	同上
		14週	国際経済の諸問題	同上
		15週	定期試験	
		16週	定期試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	社会	社会	これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにしつつ、より良いキャリア構築を含む生涯にわたる多様な自己形成に関する考え方、他者と共に生きていくことの重要性、及び望ましい社会や世界のあり方について考察できる。	2	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理と基礎的な政治・法・経済の仕組みを理解し、現代社会の諸課題について考察できる。	2	
				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	2	

評価割合

	試験	小論文・作文	相互評価	態度	合計
総合評価割合	80	20	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0